

アブシジン酸液剤による「ピオーネ」の着色向上技術

1. はじめに

「ピオーネ」を代表とする黒色系ぶどう品種では、果皮の着色不良による低等級化が長らく問題となっている。2022年に、果皮の着色促進に働くアブシジン酸を含有した植物成長調整剤（商品名：アブサップ液剤、住友化学（株））が新規登録され、生産地では本年より本格導入されている。本稿では、生産現場への普及導入時に参考とした一部試験結果について紹介する。

2. 試験方法

供試品種は、「ピオーネ」とした。着色始期（2022年7月17日）にアブシジン酸液剤を散布処理した100倍処理区と200倍処理区、及び果粒軟化期（2022年7月12日）に散布処理した100倍処理区を設定し、果実品質について、無処理区と比較した。散布方法は、1果房あたり約5mlを目安とし、ハndsプレーを用いて、果房に満遍なく直接噴霧した。

3. 結果

無処理区と比較して、各処理区で果皮色が有意に向上した（表）。処理区間における果皮色に有意な差は確認されなかったものの、着色始期・100倍処理区で、最も果皮色が高かった。同様の傾向は、果皮のアントシアニン含量吸光度値でも確認され、特に、着色始期・100倍処理区は、着色始期・200倍処理区と比較して、吸光度値が有意に高かった（表・図1）。また、果実品質の低下や、果粒表面の薬斑は確認されなかった（図2）。

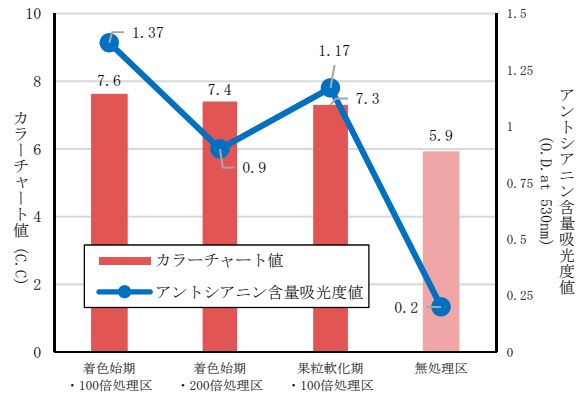


図1 アブシジン酸液剤処理の違いが「ピオーネ」の果皮色及びアントシアニン含量吸光度値に及ぼす影響

アントシアニン含量吸光度値…数値が高いほど、果皮より溶出したアントシアニン類の推定総量が多いことを示す。



図2 試験区ごとの果房の様子

①着色始期・100倍処理区、②着色始期・200倍処理区、
③果粒軟化期・100倍処理区、④無処理区

4. 使用上の注意点

- (1) 弱樹勢樹では着色促進効果が得られにくいいため、使用を控える。
- (2) 環状剥皮処理との併用については、樹体への影響が判明していないため、使用は控える。
- (3) アブシジン酸液剤は光分解しやすいため、調整液はその日のうちに使い切る。
- (4) 適正着果量を順守する。

表 アブシジン酸液剤と果実品質

試験区		果房重	粒数	果皮色 ¹⁾	アントシアニン含量吸光度値	糖度	酒石酸含量
処理時期	処理濃度	(g)	(粒)	(C.C)	(O.D. at 530nm)	(° Brix)	(g/100ml)
着色始期	100倍処理	533	31	7.6b	1.37c	18.2ab	0.49
着色始期	200倍処理	557	30	7.4b	0.90b	17.9a	0.51
果粒軟化期	100倍処理	551	32	7.3b	1.17bc	18.1ab	0.47
	無処理	517	32	5.9a	0.20a	19.0b	0.48
有意性 ²⁾		ns	ns	*	*	*	ns

¹⁾ 農水省果樹試験場監修の赤・黒系カラーチャートを使用

²⁾ Tukeyの多重検定による（nsは有意差なし、*は5%水準で有意差有りを示す、n=3）

（栽培開発室 研究員 大熊 祐之介）